

## [JHPCN シンポジウム]

**JHPCN 学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点  
第 14 回シンポジウム報告**

滝沢 寛之

東北大学サイバーサイエンスセンター スーパーコンピューティング研究部

7 月 7 日から 8 日にかけて開催された今年度の学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点 (JHPCN) シンポジウムは、初の試みとして現地発表とオンライン発表のハイブリッド開催となりました。新型コロナウイルス (COVID-19) 感染拡大防止のため現地参加可能人数は 50 名に制限されていましたが、それでも、会場では普段お会いすることのない方々とも対面でお会いすることができる有意義な機会となりました。

今回のシンポジウムでは、昨年度採択された 48 課題の成果報告発表がありました。各発表には昨年度と同様に 20 分 (発表 15 分、質疑応答 5 分) が割り当てられ、並列セッションでプログラムが構成されました (2 年前までは各発表 15 分)。現地発表は A 会場と B 会場に分かれており、参加者も 2 会場に分かれて聴講しました。また、昨年度に引き続き招待講演が企画され、ペンシルバニア州立大学の Rui Zhang 博士による自然言語処理に関する講演がありました。さらに、今年度採択された課題 62 件のポスター発表に加えて、各構成拠点から推薦された萌芽課題 13 件のポスター発表がありました。

学際大規模情報基盤共同利用・共同研究は、東北大学、北海道大学、東京大学、東京工業大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、九州大学にそれぞれ附置するスーパーコンピュータを持つ 8 つの共同利用の施設を構成拠点とする「学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点」が、様々な計算科学分野の研究者らと取り組む学際的な共同利用・共同研究です。今年度より、各構成拠点に加え、国立情報学研究所、産業技術総合研究所、筑波大学人工知能科学センターが共同で運営する、データ科学・データ利活用に主軸をおいた計算基盤「mdx」も新たに共同研究のための計算機資源として提供しています。従来の課題分野を大規模計算課題分野と呼び、それに加えて今年度からデータ科学・データ利活用の課題分野が新設されたために、採択課題数もその多様性も一層増しました。

平成 22 年度から令和 4 年度において約 500 件を超える課題が学際大規模情報基盤共同利用・共同研究として採択されており、そのうち当センターとの共同研究課題は 89 件となっております。今年度は、7 件が当センターとの共同研究課題として採択されております。今年度採択分も含め、これまでの採択課題に関する情報は以下の URL で公開されております。是非、高性能計算を用いた多岐にわたる共同研究活動をご覧頂ければと存じます (JHPCN URL: <https://jhpcn-kyoten.itc.u-tokyo.ac.jp/ja/sympo/14th>)。

来年度の学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点の研究公募は 11 月頃に公開予定です。ご興味のあるかたは奮ってご応募ください。また、応募に際しまして当センターの計算機科学を専門とする教員との共同研究の可能性を検討したい、手続き方法が分からない等、本応募に関して不明な点があります場合は、お気軽に当センターまでお問い合わせください。

【JHPCN に関する問い合わせ窓口】 joint\_research@cc.tohoku.ac.jp